

大草谷津田生きものの里 自然観察会

冬越しするムシたち

西野孝法（千葉市）

日 時：2022年12月18日（日）10時30分～12時 天気：曇り時々晴れ

参加者：17名（大人10名、子ども7名）指導員：3名

担当指導員：木下 萩 西野

太陽が雲の中から時々顔をのぞかせる程度の肌寒い中での観察会となりました。私たちは、天気が回復することを望みつつ、下見で見つけた生き物たちの場所を入念に確認し観察会に臨みました。観察は3班に分かれ参加者が揃ったところから開始する予定でしたが、キャンセルが出たため2班での開始となりました。

ムシを始めとする生き物たちを見つけるヒントなどを説明しながら、駐車場周辺、観察路、田んぼや用水路、下ノ畑などを巡回しました。

子どもたちは、みな生き物大好きで捕虫網・たも網を渡すと「伸縮するのが良い」などと言いながら大喜びでした。

<観察した生き物たち>

駐車場周辺：ムネアカハラビロカマキリの死骸

原っぱ：オオカマキリの卵、カラスウリの種

観察路：ウラギンシジミ、ムラサキツバメ

田んぼ/用水路：ドジョウ、ヌマエビ、タニシ、アメリカザリガニ

下ノ畑：カブトムシの幼虫



観察会開始の挨拶

カマキリの卵を見つけると目を輝かせて見ます。そこで「触って感触を確かめよう！」と声をかけますがなかなか手が出ません。この現象は同伴している大人も同様でした。私の子どもの頃と違い、電子図鑑などで動画も見られる時代なので知識はありますが、実際に生きているものに触れる機会が少ないのでは？と感じました。そこで、田んぼ/用水路での「ガサガサ」に多くの時間を割くことにしました。最初は泥濘に足を取られ網を構える姿は「へっぴり腰」でしたが、網の中にたくさんの生き物を見つけると靴や服が汚れるのも忘れて夢中になっていました。「ハマりました！」と言って大人は子ども以上に夢中になっていました。実際に生き物に触れることが大事であることを実感します。

最後に「たくさんの生き物に触れられて良かった。」等の感想をいただき観察会を終えました。



たくさんの生き物に触れて満足



自然下のカブトムシの幼虫に感動



観察を終えて笑顔一杯の参加者